「全然理解されない」「なんで俺だけ」親も気づきにくい子どもの“コロナ後遺症”
2022 年 8 月 14 日　TBS ニュース

感染拡大が止まらない新型コロナウイルス。感染者が増加するのに伴って懸念されているのが、子どものコロナ後遺症です。「子どもは軽症」「コロナは風邪のようなもの」などと、かつてほどの危機感をお持ちでない方も多いかもしれません。しかし、当事者に話を聞くと、多くの子どもたちがコロナ後遺症に苦しみ、将来への不安を抱えていました。

■治りが悪いな…診てくれる病院少なく、なかなか診断されなかった後遺症

北海道に住む 12 歳・小学校 6 年生の女の子。友達や学校が大好きだったといいますが、3 月にコロナに感染し、複数の不調が併発する“後遺症”と闘っています。倦怠感が長引き、学校に登校できるようになったのは 7 月に入ってからのことだったといいます。

ーー後遺症と思われる症状が出たのはいつ?

母親:

「10 日間で療養期間は終わりと保健所から連絡をいただいていたんですけど、その時点でも倦怠感と、頭痛、あと時々腹痛がずっと続いてたんです。

だるかったら横になっていれば良いって思うんですけど、寝ていられないくらいの倦怠感みたいで、夜中に起きてきて、『お母さん体だるい』っていうのが結構ありました」

ーーどんなふうにだるかった?

女子小学生:

「なんか…大きい岩が自分の体の上に乗っている感じ」

当初はコロナの治りが悪いなとしか思っていなかったといいます。しかし、不調は 1 か月ほど続きました。一体何が起きているのか、不安の中過ごしました。なかなか“コロナ後遺症”と診断されず、適切な治療を受けられなかったのには理由がありました。

ーー後遺症の診断に時間がかかったそうですね。

母親:

「(住んでいる）自治体では後遺症を診てくれる先生がいないんです。隣の市の病院だったらいたんですけど、その市在住の人じゃないと受け付けられませんと言われてしまって。困って探したら、ツイッターでヒラハタクリニックの平畑先生を見つけて…オンライ

ン診療で『後遺症だね』と」
ーー娘さんを見ていてどんなことを思った?
母親:
「風邪でもインフルエンザでもないなとは思いましたね。全然違うなって。子どもだからほかのウイルスの感染症にかかって来てましたけど全く違うなと。倦怠感の動けない度合いが、本当に動けなくてトイレに行くだけって感じでした。それなのに、私には何もできない、見てることしかできないみくて…代わってあげることもできないし。
何も知らない人が見たら、『なんて怠けてるんだろう』って思うだろうし、私を見れば、『なんて甘やかしてる親なんだろう』って思うかもしれません。でも、そうじゃない現実がここにあるんです」
ーー子どものコロナ後遺症を経験して、いまどんなことを感じる?
母親:
「基礎疾患が全くなくても後遺症になっているので、世の中の偏見が無くなったり、誰にでも起こりうることだと周知されてほしいです。
子どもがぐたっとしてたら、怠けてるんじゃなくって、『どんな感じなの?』というのを聞いてもらって、小さい子だったら説明するのも大変だとは思うんですけど、子どもの言葉に耳を傾けてもらって、症状をよくみてもらいたいなと思います。
あと、後遺症を診てくれる先生や病院が増えてくれるといいなと本当に思います
■「頭が真っ白」「汗が止まらない」ずっとこのままなのかなという不安
野球が大好きだという埼玉県の14歳の男子中学生は、ワクチンは2回接種済みでしたが、2月上旬にコロナに感染しました。症状は軽症でした。しかし、その後、喘息のような咳、微熱、頭痛、腹痛と倦怠感など複数の症状に襲われます。そして現在まで、半年ほど“コロナ後遺症”に悩まされているといいます。
ーー複数の症状がでているようですが、これまで一番大変だったことは?
男子中学生:
「咳ですね。咳が本当にひどくて寝れない、夜中にひどくなって寝れなかったり。喉がイガイガして喋るときもガラガラになっちゃったり」
ーー生活にはどんな支障がありますか?
男子中学生:
「自転車をこぐときに頭が真っ白になっちゃって、何も考えられなくて、こげなかったことが度々ありました。なんて言えばいいんだろう…目は見えているけど意識が朦朧としていて、ウトウトしちゃうみたいな感じで。
学校では、体育の後に汗が止まらなくなって、歩けなくなり、友達に肩を貸してもらって保健室に連れていってもらいました。自分では全然暑くないと思ってても（汗が）顔からポタポタ垂れてきて、地面が水浸しになっていました。本当に怖かったです。ずっとこのままなのかなって。
文字を読んで理解しようとしたり、必死に覚えようとすると一気に疲れます。勉強とか頭を使うことをやった後に疲れてすぐに寝ちゃったりとか。立てなくてソファにぐだーってなったり」
■「さぼり病とか言ってごめんね・・・」身体的だけでなく、精神的な辛さも

――後遺症について周りの反応はどうだった?
男子中学生:
「最初は周囲に話していたんですけど、全然理解してもらえなくて、話さなくなっちゃいました。聞き返されたりとか、『何で何で』みたいな感じだったのでつらかったです。コロナにかかってる人がいっぱいいる中で『何で俺だけ…』って、結構、精神的にきつかったです」
母親:
「(家族の間でも)最初さぼり病とか言ってたもんね、ごめんね」
男子中学生:
「謝った方がいいと思う(笑い)」
――学校の反応はいかがでしたか?
母親:
「学校側も、コロナ後遺症の扱いがわからなかったんだと思うんですけど、あまりにもお休みが続いてしまったので、『気の持ちようだよ』って言われたんです」
――「気の持ちよう」と言われたときどう思った?
男子中学生:
「やっぱりまだ理解されないんだなっていうのが一番でしたね」
――高校受験の年ですよね?
母親:
「後遺症になったから出席日数が足りなくて、休学せざるを得ないとか、辞めざるを得ないという方もいたので、普通の高校を受験できるのかなと心配です。一方で、高校の学校説明会で『コロナ後遺症なんですけど受け入れてくれますか』とも聞きにくいです。
まだ14歳です。これからどうゆうサポートがあるのか、何をサポートしなきゃいけないのかが全く見えないので、それが一番親としては不安です」
取材をすると、子どもがコロナ後遺症で学校に行けなくなったというケースが多くありました。その際、「出席停止」か、「欠席」かは、学校によって対応が異なるようです。体の不調だけでなく、精神的にも不安が募るはずですが、インタビューに答えてくれた男子中学生は未来に前向きです。
――将来についてどう感じていますか?
男子中学生:
いつか治るでしょって思ってます。治らないって思ったらだめかなと思ってきたので、もうポジティブにいこうと思います。
――治ったら何をしたい?
男子中学生:
治ったらやっぱり野球をやりたいですね。野球を復活したいのと、自分の体を気にせず動きたいですね。
緊張した様子でインタビューに答えてくれた男子中学生。少しでも多くの人に“こどものコロナ後遺症”について知ってもらいたいと、言葉にしづらい自分の症状や思いを何とか表現しようと、懸命に話してくれました。
(7月28日放送・配信「SHARE」より)